

令和元年度第5回 新潟市子ども・子育て会議 会議概要

開催日時	令和2年2月5日（水）午後1時30分～2時40分
会 場	市役所分館 6階 1-601会議室
出席委員	阿部委員、市嶋委員、海津委員、小池委員、小林委員、斎藤委員、佐藤委員、椎谷委員、志賀委員、関川委員、長谷川委員、平田委員、政谷委員、三浦委員、山岸委員（出席15名、欠席4名）
事務局 関係課 出席者	こども未来部長、こども政策課長ほか同課より5名、こども家庭課長ほか同課より4名、保育課課長補佐ほか同課より2名、児童相談所副所長、教育総務課課長、地域教育推進課課長補佐、株式会社ジャパン総合研究所職員1名
傍聴者	1名
内 容	<p>【議事】</p> <p>（1）「第2期新潟市子ども・子育て支援事業計画-新・すこやか未来アクションプラン第2期計画-」案について</p> <p>○事務局より次期計画書案について説明を行いました。</p> <p>○委員からは計画書案及び子ども・子育て支援に関して、主に次の意見・質問がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果をみると、高等教育にかかる経済的負担についての声が高いようだが、地元への就職での返還免除制度などはあるのか。 →ある。詳細は、後日所管課（学務課）から回答させていただく。また、ひとり親支援の中では就業等にかかる貸付金の返還免除などの制度がある。 ・民生委員の活動を通じて、特に、子どもや保護者に発達障がいがある（疑われる）家庭に児童虐待が多いように感じる。そのような家庭に対して、地域が気付き、支えられると良いと思う。 ・幼児教育・保育については、量の見込みと確保の方策の数字をみると、全体としては供給過多になっていくとされている。地域や年齢によって差があると思うが、事業者も一緒に議論と精査をし、計画に沿って進めていければよいと思う。 ・今後は、スマホやメディアとの付き合い方に関する対策も必要になると感じている。 ・学校現場での教育だけでなく、放課後も含め、地域や他の支援者と連携して幅広く子どもの育成に取り組んでいく必要があると感じている。

内 容	<ul style="list-style-type: none">・用語集が新たに入り、より分かりやすくなって良い。・SDG s に関する記載があることで、新潟市は幅広い考え方を取り入れていると感じた。・表紙のデザイン案がかわいらしく、ハッピーな印象で良い。・この計画書が完成したら、できるだけ幅広く周知し、多くの支援者や家庭に見てもらえるような工夫をすべき。・項目（章）ごとにインデックスや色分けなどしてはどうか。・子育て支援に関わる者はこの計画をしっかりと読み込むべき。そのうえで、一般の方にも大事なところが伝わるように、簡易版・概要版を作成してはどうか。・ホームページでの公開や、パンフレット等に QR コードをつけるなど、アクセスしやすい工夫をして、広く知ってもらうべき。・計画書は全体的に委員の意見が丁寧に反映されていると評価する。・計画を策定しただけでなく、今後、この計画に基づいてどう進めていくかが大事。
-----	--